

バイエル レチナ・アワード 審査委員長からのメッセージ

「バイエル レチナ・アワード」は、網膜硝子体疾患(後眼部領域)の研究助成であり、今年で9回目の応募を迎えました。

目は体外から直接観察可能な限られた臓器の一つであることから、網膜硝子体疾患のみならず、多くの生物の生理、病理、薬理などの基礎研究モデルとしても用いられてきました。近年の画像診断装置の発展などにもない、網膜硝子体疾患の病態・治療に関する臨床的な研究も大きく飛躍しましたが、網膜硝子体疾患が視力やQOLに大きな影響を与えることを考えると、今後もさらなる病態の解明、治療の進歩が必要と思われます。



「バイエル レチナ・アワード」は、アンメットニーズの高い網膜硝子体疾患の更なる理解、治療への応用といった医学的進歩に貢献する若い研究者をサポートする目的で、2015年に設立された研究助成プログラムです。「バイエル レチナ・アワード」は基礎および臨床研究の双方を対象とし、革新性および臨床的意義の観点から5人の審査委員が厳正に選考しております。

いよいよ2023年度の募集がスタートいたします。これまで応募いただき、残念ながら採択を見送られた先生方でも45歳未満(2023年4月1日時点)であれば、積極的な再応募をお待ちしております。研究計画をお持ちの先生は、ぜひご応募ください。

バイエル レチナ・アワード審査委員長
九州大学 総長
石橋 達朗